

# 広葉樹林で見つけた 大型蛾の繭3種

(小倉山(塩山)/山歩塾、  
2018年3月18日)

- 色彩は異なることあり
- 3種とも卵で越冬するので、  
この時期の繭は空
- いずれも終齢幼虫

- 長さ：羽を広げた時の幅
- 雌雄等で色彩は異なることあり

## ウスタビガ

- 繭は形状から「山吹(ヤマカマス)」ともいわれる。  
(「カマス」の由来は筵(ムシロ)を二つ折りにして両側を編んだ袋)  
繭の一直線の口がカマスに似ている。



## ヤママユ

- 繭からとれる糸は「天蚕糸(テンサンシ)」と呼ばれ、強い光沢と美しい緑色から珍重される。  
(ウスタビガの繭からは糸はとれない)



## クスサン

- 繭は「透かし俵(スカシダワラ)」、終齢幼虫は「白髪太郎(シラガタロウ)」ともいわれる。
- 終齢幼虫の「白髪」はふわふわしている。毒はない。
- 終齢幼虫は大食漢で、特にクリの木の害虫とされる。

